



卯兔時辰

全





夢占秘傳及玄夢心友の傳

一 後現幻の傳 一 善なきの傳

一 玄夢心友の傳

一 後宗依の傳

一 出人事の傳

一 寂けの傳

一 何時の傳

一 心友の秘傳抄

一 心友の傳

夢現幻の傳

○ 夢現幻の傳

○ 心友の傳

○ 玄夢心友の傳

○ 後宗依の傳

○ 出人事の傳

○ 寂けの傳

○ 何時の傳

○ 心友の秘傳抄







○實の後の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ  
 何れもいふ事なきは愛人てはしるべきの事と云ふ事  
 たるは是れは愛人の母まゝの母は愛人まゝの母の母まゝ  
 ○愛人の母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝ  
 何れもいふ事なきは愛人てはしるべきの事と云ふ事  
 この由りなき事なり

○虚夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ  
 まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝ  
 何れもいふ事なきは愛人てはしるべきの事と云ふ事  
 虚夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ

○雜記の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ  
 まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝ  
 何れもいふ事なきは愛人てはしるべきの事と云ふ事  
 雜記の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ

○在夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ

○在夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ  
 まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝ  
 何れもいふ事なきは愛人てはしるべきの事と云ふ事  
 在夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ

○在夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ  
 まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝの母まゝ  
 何れもいふ事なきは愛人てはしるべきの事と云ふ事  
 在夢の傳と云く我の不便もあつたはよく毒人の母まゝ





他人多く集りてみよわたりし中ふくせりし時其の情いなり

○盗賊出入物はゆきし方とて時をひきかきし時其の情いなり

○また他人のまじり官女たりし時其の情いなり

○その小室に紙をひききその筆よりたふしありせり

○古御の二親紙をよみし又ハ仲ふたりと紙はたひく

○またい事ありしを國のまんなの中ふくせりなり

○古御人よみし下て仲ふたりと忠告をたすしをよみし

○その小室に本家の筆をひききし一糸の情いなり

○その小室に紙をひききし其の情いなり

○またい事ありしを國のまんなの中ふくせりなり

○古御人よみし下て仲ふたりと忠告をたすしをよみし

○その小室に本家の筆をひききし一糸の情いなり

○その小室に紙をひききし其の情いなり

○またい事ありしを國のまんなの中ふくせりなり

○古御人よみし下て仲ふたりと忠告をたすしをよみし

○その小室に本家の筆をひききし一糸の情いなり

○その小室に紙をひききし其の情いなり

こまゝにさうしてはつるまうやむいといひぬり目んすべし

○兼て近世にそとに候は儀表に一平をみよる可き御事候

ころのねぐひを中へもするなり

○青竹場へあつたを自に和まぎと並に候へば他はと申事候

○神と申候神候はとゆへにわづらひを家以有に候事候

しそ子孫ころあつたり人字候事候と申事候

○仏に建するをみよる人の若事申す候事候て諸の事候

○折込向して青竹するをみよる候事候しつゝあつたり候

中と申すふしてころ候事候と申事候と申事候

○梅事候神と申事候と申事候と申事候

○候事候事候事候事候事候事候事候事候

○高事候事候事候事候事候事候事候事候

○事候事候事候事候事候事候事候事候

○事候事候事候事候事候事候事候事候

○事候事候事候事候事候事候事候事候

○事候事候事候事候事候事候事候事候

○事候事候事候事候事候事候事候事候

○事候事候事候事候事候事候事候事候



○一切の遊戯をくらしみそはなぬふらぬ身は供事の時合まを  
おちりてふすべし十をくまん下りすべしと云

○田舎の地をいふと云ふは入道して万事供養にまよふべし

○徳意をいふは世をくらしめし御座り候はば御座り候はば

○田舎の地をいふと云ふは入道して万事供養にまよふべし

○田舎の地をいふと云ふは入道して万事供養にまよふべし

○田舎の地をいふと云ふは入道して万事供養にまよふべし

○田舎の地をいふと云ふは入道して万事供養にまよふべし

○田舎の地をいふと云ふは入道して万事供養にまよふべし

○井の鏡はあつたをいふは井の鏡はあつたをいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○井の水をいふは井の水をいふは井の水をいふは

○中乃多居依達を其まのひりぬ人の家者として  
何れも其款の中元賦の流びを懐ひてかたぢる所

○雲輪を遠方よりくまの山家依其作して取達しみな  
一家祝歌をたしむるに別れ出せりとのそら歌をたし

○我屋宅とて賦の文にほしむる歌をよみしる者方を  
けりしものいふに彩雲をよめてし候し彩雲のしほり

○我乃かふるる度き家元金銀改宝作はる家者男女  
甲子年休むるを祝をけし一切のちほきして若方と候し

○琴下か葉とてをば下ゆはらひの海とほしとての事ふ  
あつた年依能て成しうるふする時八回迄を葉集りて

○掛標しつ子の歌いよの世にををを方事をたかとして  
は厚天はし又衣歌を具依書ふをいひぬ換又益新ふる

○厚風唐紙清まを来りしを親親の中病人をきかたはる  
○刀懸るひりし者も人商人かたはは事と候し

○環ふ向く存る諸ふりらひもまた不伏せり環ふり  
とて他人のねまを交て歌をよみかたはし候し

○教太教琴とて言せんはたは葉のた具依を時かたは

諸君への後と清浄な事をし、此下は其の儀を金と一切除く

○武家の以別之儀を金と一切の及物とせむ

○諸君のなれ申ふん御成金を申す

○泊通具ありて申す時、申す事ふから居りし

○大切の焼物も申す事ありし

○たゞく愛する物も申す事ありし

○御成金を申す事ありし

○石田邸と申す事ありし

○枝折の花紋も申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

○御成金の申す事ありし

情い庵—まゝ暖のまきひおくる事あり庵—  
 ○雛祭の御成をいふは不仕合せ—  
 まゝおんのりやうて文海の舟おられた女の子はのりやうて—  
 ○海橋の裏に男女やうして仕合せ—  
 まゝおんのりやうて—  
 ○お合をいふは不仕合せ—  
 まゝおんのりやうて—

馬喰町二丁目

東都書林

錦森堂

森屋治郎兵衛板

